

技能実習生の日本語学習の内発的動機づけに関する研究

— ミャンマー人技能実習生に対する調査と分析 —

Research on Intrinsic Motivation for Japanese Language Learning of Technical Intern Trainees

— Survey and Analysis of Myanmar Technical Intern Trainees —

○本田 航平*

Kohei Honda

芦屋大学大学院 教育学研究科 M1*

Ashiya University Graduate School of Education M1*

藤本 光司**

Koji FUJIMOTO

芦屋大学大学院**

Ashiya University Graduate School **

あらまし 昨今、政府を筆頭に、技能実習生に対する日本語教育の重要性が提言されている一方、実習生の日本語学習に対する意欲が低いとの指摘が多い。しかしながら、筆者が行った調査では、内発的動機づけにより、日本語学習に取り組んでいることが明らかになった。そこで本稿では、内発的動機づけがどのように形成されているのかについて考察し、形成に向けた課題を述べる。

キーワード：技能実習生、内発的動機づけ、学習意欲、日本語学習、コミュニケーション

1. はじめに

政府が2018年7月に公表した閣議決定「外国人の受入れ環境の整備に関する業務の基本方針について」^[1]では、「日本語教育の充実をはじめとする外国人の受入れ環境の整備に係る様々な分野における取組を政府全体として強化し、進める必要がある」と日本語教育の重要性を示している。実際、技能実習の目的である、「技能・技術・知識」の修得や、日本での生活を円滑に送る上では、日本語でのコミュニケーションが中心となるため、日本語能力が高いことが望ましい。一方、中原(2020)^[2]は、「日本語が使えることは、日本で生活している最中も、その後の生活でも本人のみならず、関わるさまざまな人にとってもメリットをもたらすことが考えられる」と示しており、技能実習修了後を考慮した場合にも、日本語が役立つと言える。事実、2022年に、外国人技能実習機構が公表した、帰国技能実習生フォローアップ調査^[3]では、「実習を通して帰国後に役に立った内容」に関して、「日本語能力の修得」を、60%以上の実習生が挙げている。

しかしながら、中川・神谷(2017)^[4]は、日本語学習への意欲に関しては、実習期間の短い技能実習生ほど日本語学習に意欲的ではないという指摘をしており、他方では、落合(2010)^[5]が指摘している研修生・実習生(現在の技能実習生)への調査では、日本語学習に特別な意欲を示さない研修生・実習生の方が多いとし、これらの原因を次の3点として挙げている。

(1)勉強が元々好きではない上、学校を卒業してから何年も経っており勉強の習慣が薄れている。

(2)心は常に国の家族に向いており、“いまここ”は仮の居場所であるので経験を広げたいなどの発想が生まれにくい。

(3)仕事の他、身の回りのことをしなければならぬので忙しく、不必要なことに時間を割くより休みたい。

こうした背景から、筆者は、技能実習生が日本語学習に対して、どのような動機づけで取り組んでいるかの調査を行った。

2. 調査方法

鹿毛雅治(2013)の『学習意欲の理論-動機づけの教育心理学』を参考に質問枝を作成した。(表1)

- ・目的：日本語学習の動機づけを明らかにするため
- ・対象：ミャンマー人技能実習生30名
- ・期間：2022年10月12日~10月17日
- ・方法：Google Formsを使用
- ・質問数等：4件法6問(とてもあてはまる、あてはまる、あてはまらない、全くあてはまらない)

：自由記述1問(日本語を学習する理由について)

表1 ミャンマー人技能実習生の質問内容(6問)

内発的動機づけ	勉強することが楽しいから
	新しいことを知ることができて嬉しいから
	難しいことが分かるのはおもしろいから

外的 動機づけ	職場の人や組合の人に叱られたくないから
	職場の人や組合の人に褒められたいから
	日本語ができるとご褒美がもらえるから

3. 調査結果

これらの調査を整理すると、まず、内容に対する好奇心や関心によってもたらされる、内発的動機づけ(図1)の割合は、3つの質問とも、「とてもあてはまる」、「あてはまる」の合計が9割を超えている。一方の、義務や賞罰、強制などによってもたらされる、外的動機づけ(図2)の割合は、「職場の人や組合の人に叱られたくないから」という質問に対しては、「とてもあてはまる」と「あてはまる」の2つの選択肢で、約7割を占めているが、内発的動機づけと比較すると、いずれの質問でも、「とてもあてはまる」、「あてはまる」の割合は、低い結果となった。

次に、自由記述で行った、「日本語を学習する理由について」の調査では、「日本語は面白いから」、「日本で働く夢を叶えたいから」など、多くの実習生から、内発的動機づけが、確認できた。従って、先に示した、日本語学習に特別な意欲を示さない原因の3点の(2)の「心は常に国の家族に向いており、「いまここ」は仮の居場所であるので経験を広げたいなどの発想が生まれにくい」とする見解は、本調査では確認することはできなかった。また、日本語や日本での就労に対して、興味や関心のあると答えた実習生は、日本語の学習が必要であるため、同原因(3)の「不必要なことに時間を割くより休みたい」に該当しないことが推測できる。

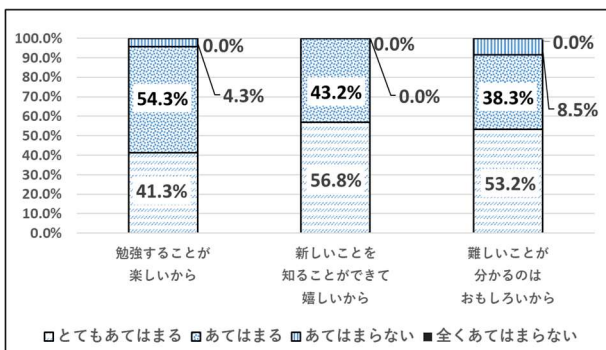


図1 内発的動機づけ

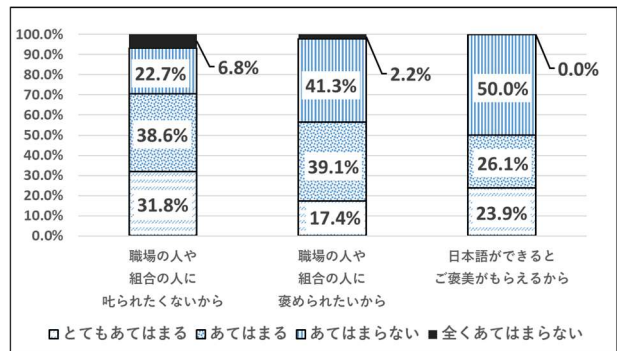


図2 外的動機づけ

4. 今後の課題

本稿では、ミャンマー人技能実習生を対象に、日本語学習に対する動機づけの調査を行い、内発的動機づけの割合が高いことが明らかとなった。この要因としては、「日本語学習が楽しいと思えるような学習の方法や場所が確立されていること」、「将来の目標や夢を設定していること」、の2点であると考察する。

今後の課題として、これらの考察により、日本語に対する学習意欲が高い技能実習生の、学習方法や環境の調査を行い、それらが意欲に与える影響を明らかにする。また、目標を設定することで、内発的動機づけが高まるとする仮説を立て、動機づけの変化についての調査を行う。

以上より、研究によって得られた結果を、技能実習生の日本語学習の場に活用したい。

引用・参考文献

- [1] 首相官邸、「外国人の受入れ環境の整備に関する業務の基本方針について」、2018
- [2] 中原郷子、「ベトナム人技能実習生が習得を望む日本語力(JITCOチェックシート日本語能力試験 Can-do 自己評価リストを用いた検討)」、長崎外大論叢 24号 pp31-42、2018
- [3] 外国人技能実習機構、「帰国技能実習生フォローアップ調査」、2022
- [4] 中川かず子、神谷順子、「道内外外国人技能実習生の日本語学習環境をめぐる課題(受け入れ推進地域を事例として)」、開発論集 99号 pp15-32、2017
- [5] 落合美佐子、「外国人研修生・技能実習生の生活実態と意識(語りの中から見えてくるもの)」、群馬大学国際教育・研究センター論集第9号、pp51-68、2010
- [6] 鹿毛雅治、『学習意欲の理論-動機づけの教育心理学』、金子書房、2013